

わくわく家庭菜園



秋冬野菜の管理と収穫目安

【栽培管理の注意点】

- ・葉菜類や根もの（大根やカブなど）で直播（すじまきやバラまき）のものは、適宜間引きをしましょう。
（間引いたものもおいしくいただけます）
- ・タマネギやニンニクなどで専用の肥料ではなく一般的な複合肥料を使用している場合、追肥が必要となります。
但し、タマネギは葉の生育が旺盛過ぎると玉太りが悪くなりますので、旺盛な場合は追肥は加減するか1回見送るなど調整してください。
また、苗が弱く生育が思わしくない場合は液肥か葉面散布剤を施用し、生育を促してください。
※今作の育苗時期（8～9月）が暑かったため苗の生育が思わしくないことが多いと思います。
- ・カリフラワーは、収穫2週間前（上から見たとき花蕾がソフボール大程度）になると葉が開き花蕾がむき出しになります。
花蕾が霜にあたると黒くなりますので、不織布や新聞紙などを花蕾につかないように覆うと黒くならにくいです。
- ・晴天が1週間続く場合は、中2日で灌水をすると生育が良くなります。

月	火	水	木	金	土	日
☀	☀	☀	☀	☀	☁	☔
		↑				
		灌水				

- ・冬場の暖かい雨は、細菌性の病気（軟腐病などの根本から腐れる病気）の発生を助長します。11月中に銅

剤（Zボルドーやコサイド3000、クプロシールドなど）の散布をすると予防効果がありますのでオススメです。但し、品目ごとに散布できる期限がありますのでご注意ください。

（農薬の裏に期限は書いてあります。《例》収穫前14日、収穫前日まで など）

- ・いちご（露地）は11月前半に一度追肥をし株を作っておきましょう。12月に入ると休眠に入ります。

（葉が小さくなり地面に這ったような草勢になります。葉が赤くなくても問題ありません。鉢植えの方は、葉が黄色くなり枯れない程度の灌水を行ってください。）

秋に出たランナーで親株を増殖し鉢受けした方は、活着し本葉2枚展開したら切り離し（できれば11月中旬まで）、6寸ポットなど大きめの鉢に鉢上げしてしっかり冬の寒に遭遇させてください。（暖かいトンネル等の中に置いておくと、定植用苗のランナーの出が悪くなります。）

【収穫の目安】

- ・秋じゃがは葉が完全に黄色くなってから掘り取りした方が良いです。青い葉が残っていると、芋の肥大不足が懸念されます。
- ・茎ブロッコリーは頂芽は上から見たときに500円玉サイズになったら収穫し、側枝の伸長を促してください。
側枝を収穫するときは、ひと芽残すとそこからまた次の側枝が伸び収穫することができます。
- ・レタスは結球した玉が両手の手のひらに乗る程度になり、ふんわりしている頃がおいしいです。ガチガチに巻きすぎると苦みが出てきます。
- ・キャベツ（寒玉）はしっかり巻いて重量感がある方が甘みが増しおいしいです。



11月・12月の柑橘園管理

果樹

原口 悠貴

下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 病害虫防除

品種	対象病害虫	防除時期	農薬名	希釈倍数
温州	貯蔵病害	収穫前	ベフトップジンフロアブル	1,500倍
	越冬害虫	12/下~1月/中	ハーベストオイル	60倍
中晩柑	貯蔵病害	11月下旬	ベンレート水和剤 混用	4,000倍
			ベフラン液剤	2,000倍
		12月中旬	ベフトップジンフロアブル	1,500倍

2. 施肥、葉面散布

○通常タイプ

施肥時期	品種名	10a 当たり施肥量	肥料名
11月上旬	ポンカン・早生・中熟・普通温州	5袋	ニュー熊本果樹3号
	清見・河内晩柑 甘夏・パール柑	3袋	
	デコポン	4袋	

○収穫が終わった品種は樹勢回復対策を行いましょう。

資材名	使用倍数	備考
尿素 又は アミノジューシーN 14 又は 神協スピリッツ	500倍	収穫後3回以上集中散布

サツマイモ



日本の「農」を学ぶ

日本農業検定事務局



日本農業検定ホームページ

サツマイモは、イモ類ヒルガオ科の野菜で、日本では鹿児島県・茨城県・千葉県などが主な生産地です。

青果用の品種は東日本では「ベニアズマ」、西日本では高系14号系統の「鳴門金時」などが多く栽培されており、これらは甘みがあり、粉質でホクホクした食感が特徴ですが、最近では甘みが強く粘質でしっとり、ねっとりした「べにはるか」や鹿児島県種子島の在来品種である「安納いも」が焼き芋用として人気です。青果用の他に加工用、でんぷん用、焼酎用などにもいろいろな品種が利用されています。

問題

サツマイモの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

(1) サツマイモの植え付けは、芋づる苗(挿し穂)の元の方の節が1、2節だけ土の中に入るように植え付ける。

(2) サツマイモは、茎や葉が伸長した後には生育が止まり、その後芋の肥大が始まる。

(3) サツマイモの肥大には、窒素肥料とカリ肥料のバランスが重要で、カリの割合が多いと養分が芋の肥大に

向けられる。

(4) サツマイモは乾燥に弱く、植え付け時やその後の生育にも十分な灌水(かんすい)が必要である。

解答…正解は(3)です。

解説…サツマイモは、芋づるの元の方の節が4、5節は土の中に入るよう植え付けます。

生育では、茎や葉の伸長と芋の肥大が並行して進み、葉で作られた養分は芋の肥大と茎葉の伸長とで競合することになります。養分がどちらに供給されるかは、窒素肥料とカリ肥料のバランスが重要で、カリ肥料の割合が高いと芋の肥大に向けられ、窒素肥料の割合が高いと茎葉の伸長へ向けられます。

サツマイモは土をあまり選ばず、乾燥と高温に強い野菜です。そのため、乾燥が続くと、活着が心配されるとき以外は灌水の必要はありません。

『新版日本の農と食を学ぶ中級編』(95ページ)より



図 サツマイモの付き方